

【JCCA 本部】建設コンサルタント協会の取り組みの記事が掲載されました

環境保全・防災テーマに 建設コンサルタントの役割を情報発信

社団法人建設コンサルタント協会の取り組み

環境配慮型社会資本整備に対応

■社会資本整備を取り巻く状況の変化に対応

社会資本整備の担い手である建設コンサルタントの専門技術集団として昭和38年に設立された「建設コンサルタント協会」は、公共事業を中心とした土木事業における企画、調査、計画、設計、工事監理等の各段階において、様々な技術サービスを提供してきた。協会の会員数は432社（平成21年6月17日現在）。

同協会では多様な事業活動を展開しているが、近年では社会資本整備を取り巻く状況が大きく変化している中で、建設コンサルタントの技術力を活用して環境保全や配電への提案へ期待がかけられている。

■環境に関する様々な活動を展開

協会でもプロジェクトの上流における計画、設計段階からの環境配慮は環境負荷低減への効果は高いことから建設コンサルタントの役割と責任はますます重大になってくるとしている。

こうした環境問題への対応としての取り組みは、会員向けに「S

調査・計画・設計段階で時代のニーズを反映

014001の規格要求事項およびマニュアルの解説や環境配慮設計の流れや環境配慮の手引の紹介、環境セミナーの開催など会員各企業の環境意識の向上に努めている。なかでも平成11年度から実施している環境セミナーは、最近では発注者からの参加も多い。

企画委員会の吉田保委員長は「自然環境の保全、再生、創出など国民の切実な要求に応える建設コンサルタントをめざすことが重要」と述べ、「防災・環境問題を通して建設コンサルタントの役割をもっと広く理解して頂くことが課題です」と強調する。

■一般向けリーフレットを作成し建設コンサルタントをPR

このため、企画委員会の社会資本整備のあり方検討ワーキンググループの活動として、『命を守るための取り組み』のリーフレットを作成、「大雨・洪水」「土砂災害」「交通事故」「地震災害」の災害をテーマに災害に強い街づくりや被害を受けないための日常の備えなどを分かりやすく解説している。

例えば『土砂災害からあなたの命を守る』では、土砂災害に対す

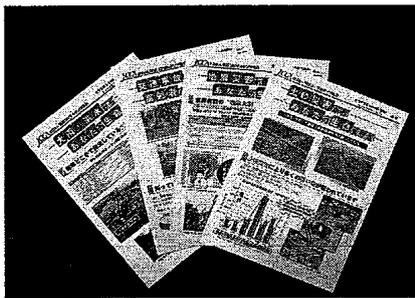
る取り組みをハード、ソフト両面から紹介し、土砂災害を発生させないための調査・解析、設計が災害の被害を最小限にすることを示しながら、建設コンサルタントの役割について説明している。

一方、『環境を守るための取り組み』では、環境をテーマに「地球温暖化」の基本的な説明から都市空間、街づくり自然環境保全など各分野における取り組みを紹介し、例えば水辺環境保全への計画づくり、設計などに地域住民の声を反映させるよう行政などと連携

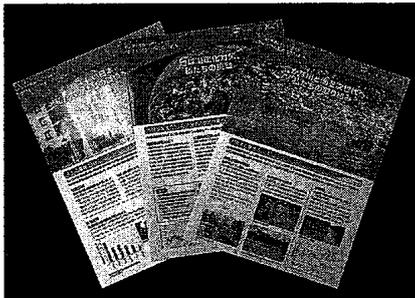
していくことが建設コンサルタントの役割であることを訴えている。

■全国規模でPR展開

協会ではこれらのリーフレットを北海道から九州まで本部、各支部の協力を得ながら全国の地域の防災イベントや街づくりイベントなどで配布し、広く国民に建設コンサルタントの役割、社会貢献について訴えていく方針。



防災をテーマに建設コンサルタントの役割をアピールしたリーフレットの



地球温暖化防止に建設コンサルタントが果たす役割を解説したリーフレット